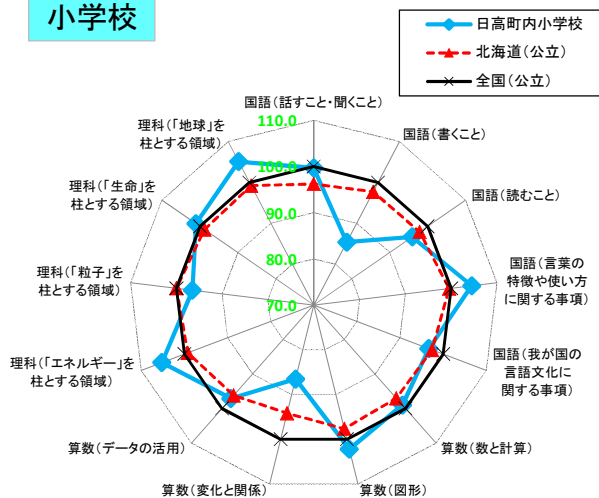


■日高町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:81人）（中学校数:4校、生徒数:71人）

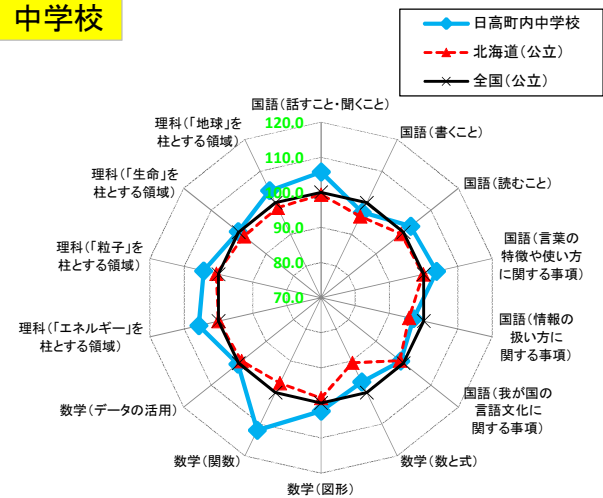
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

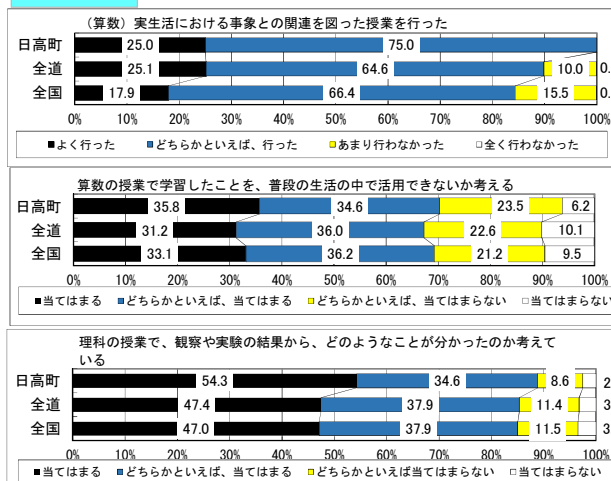


中学校

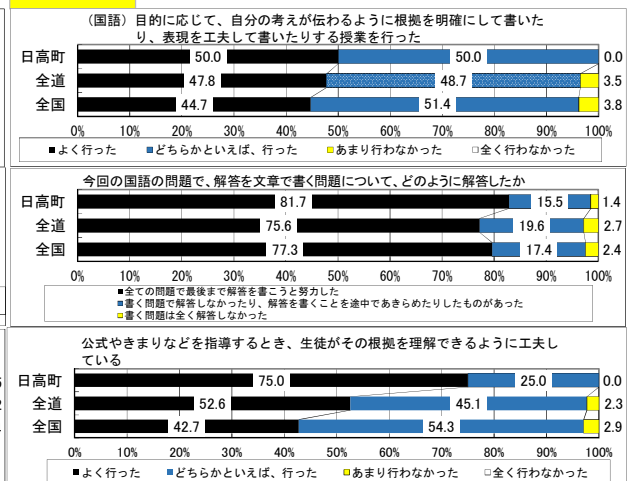


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「図形」の領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

町内の全ての学校において、教科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進したことにより、理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「エネルギー」「生命」及び「地球」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

中学校

調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、解答を文章で書く問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力したと解答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、授業改善が図られ、「図形」「関数」「データの活用」の領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

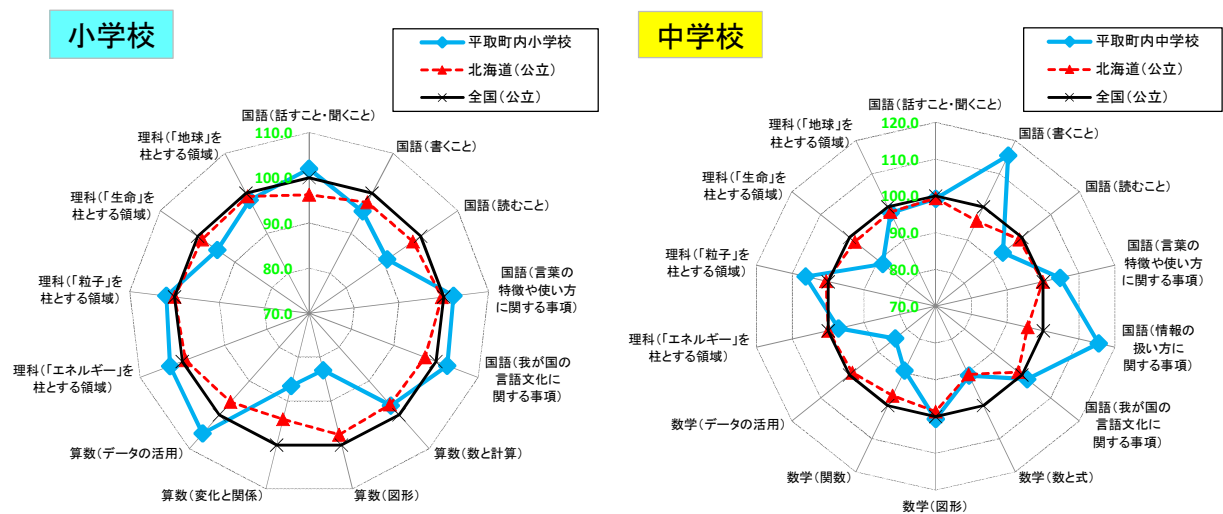
【日高町の学力向上策】

- ◎ 学力向上3年次計画に基づく、教科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組の推進
- ◎ 生活習慣づくりの支援及び家庭学習の充実に向けた校種間、家庭及び地域との連携の強化

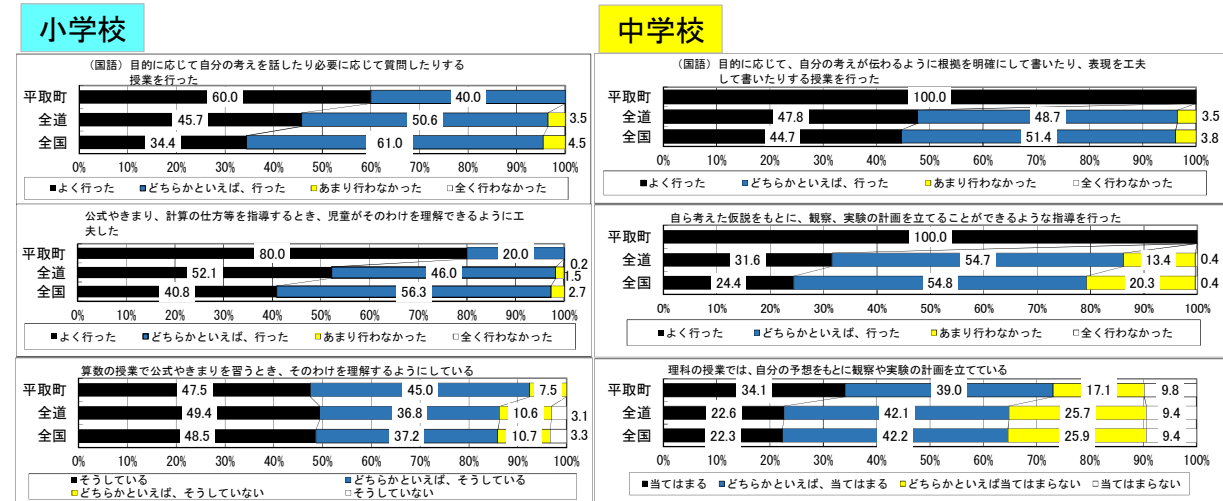
■平取町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:40人）（中学校数:2校、生徒数:40人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」及び「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、授業改善が図られ、算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童の割合が全国とほぼ同様になるとともに、「データの活用」の領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」及び「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

【平取町の学力向上策】

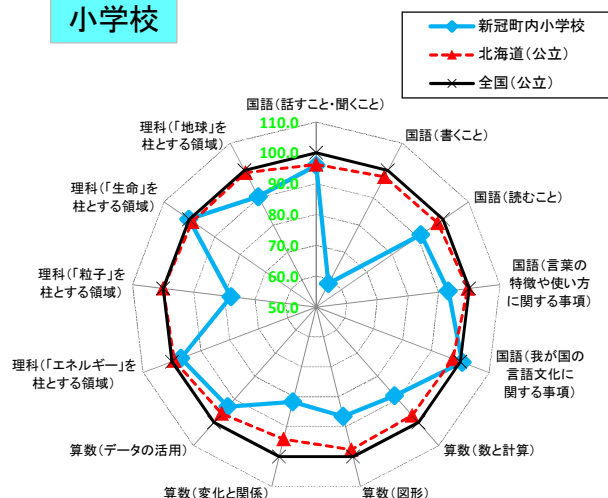
- ◎ 町指定教育推進事業・公開研究会による「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善の推進
- ◎ 長期休業中における学習サポート及び公営塾の通年開講による学習サポートの充実
- ◎ ICT支援員を活用した、「個別最適な学び」の充実を柱とした学校毎のICT実技講習会及び全町規模のオンライン研修会の開催

■新冠町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:37人）（中学校数:1校、生徒数:41人）

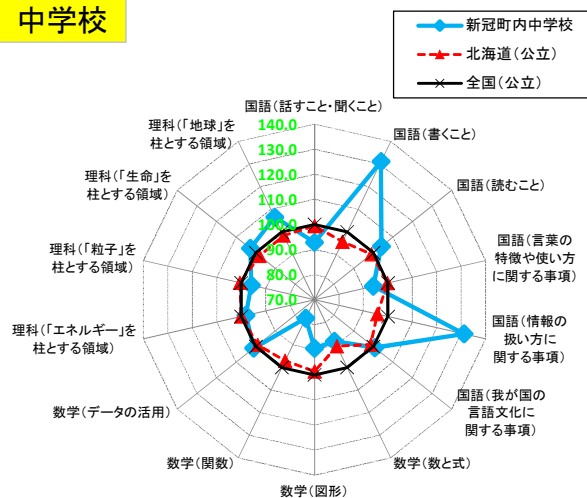
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

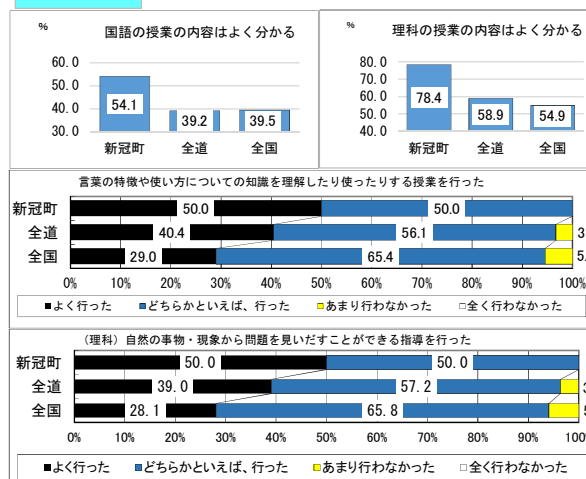


中学校

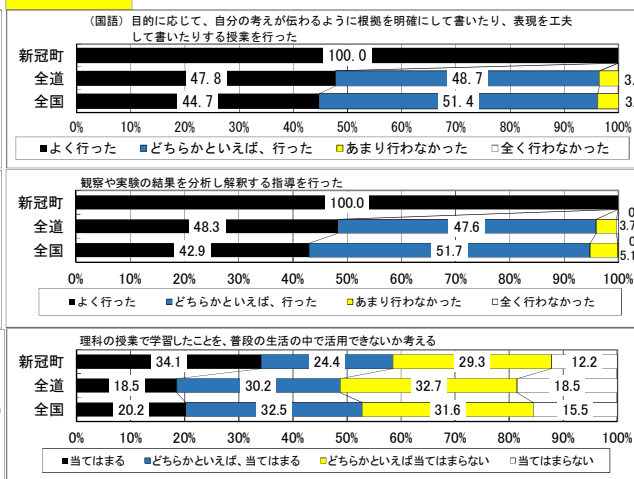


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方にに関する知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業がよく分かったと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、理科の授業がよく分かったと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「生命」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

中学校

調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、「書くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」及び「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、授業改善が図られ、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるという生徒の割合が全国を上回るとともに、「生命」及び「地球」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

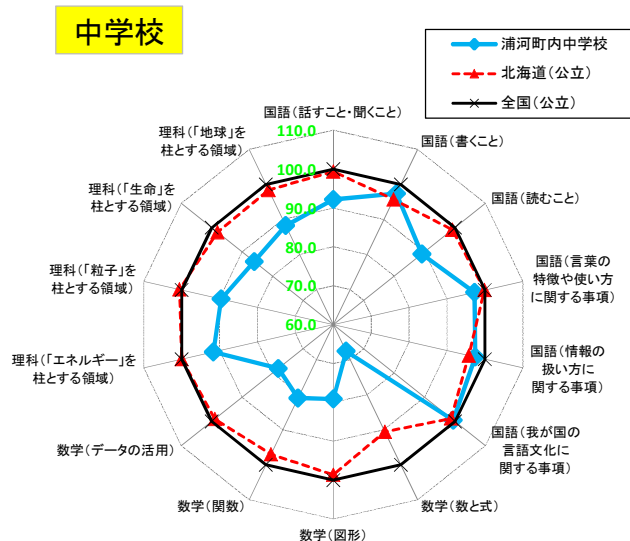
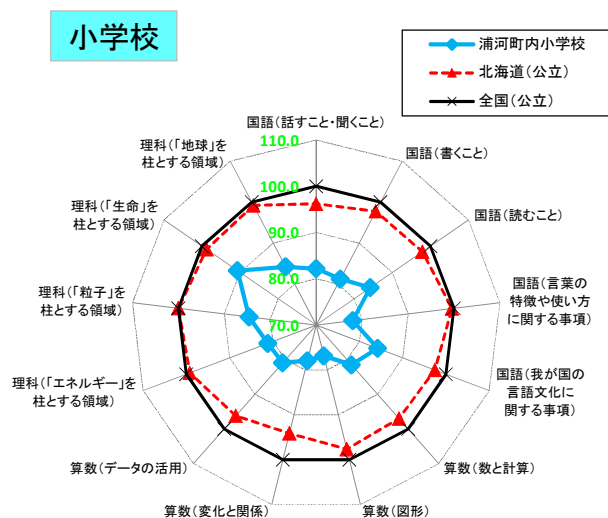
【新冠町の学力向上策】

- ◎ 幼小中接続・小中一貫を意識したカリキュラムマネジメント及び改善プランの実践と検証による授業改善の推進
- ◎ ICT機器を効果的に活用した「個別的な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組及びリモート学習等の整備による学びの保障の推進
- ◎ 校種連携による学習規律の徹底と保護者と連携した家庭学習の習慣化

■浦河町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:90人）（中学校数:3校、生徒数:86人）

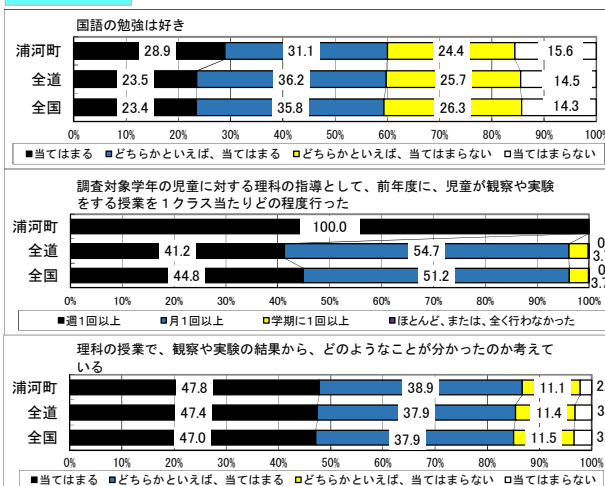
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

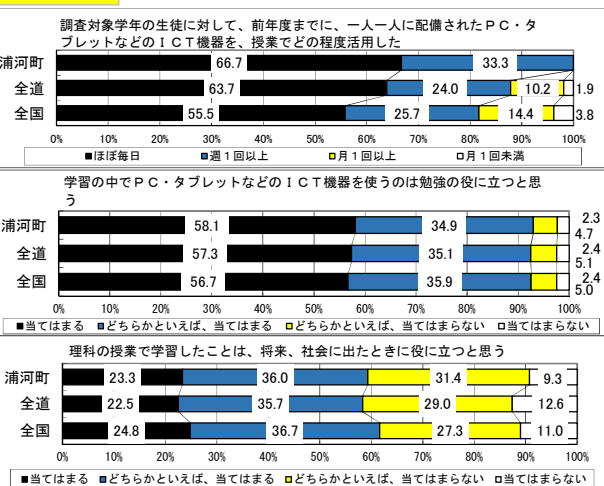


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた指導方法や指導体制の工夫改善の推進により、授業改善が図られ、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「読むこと」の領域の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度に、児童が観察や実験をする授業を週1回以上行ったことにより、授業改善が図られ、理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「生命」を柱とする領域の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「情報の扱い方に
関する事項」の平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた指導方法や指導体制の工夫改善の推進により、学習内容の理解が図られ、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全道を上回るとともに、「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

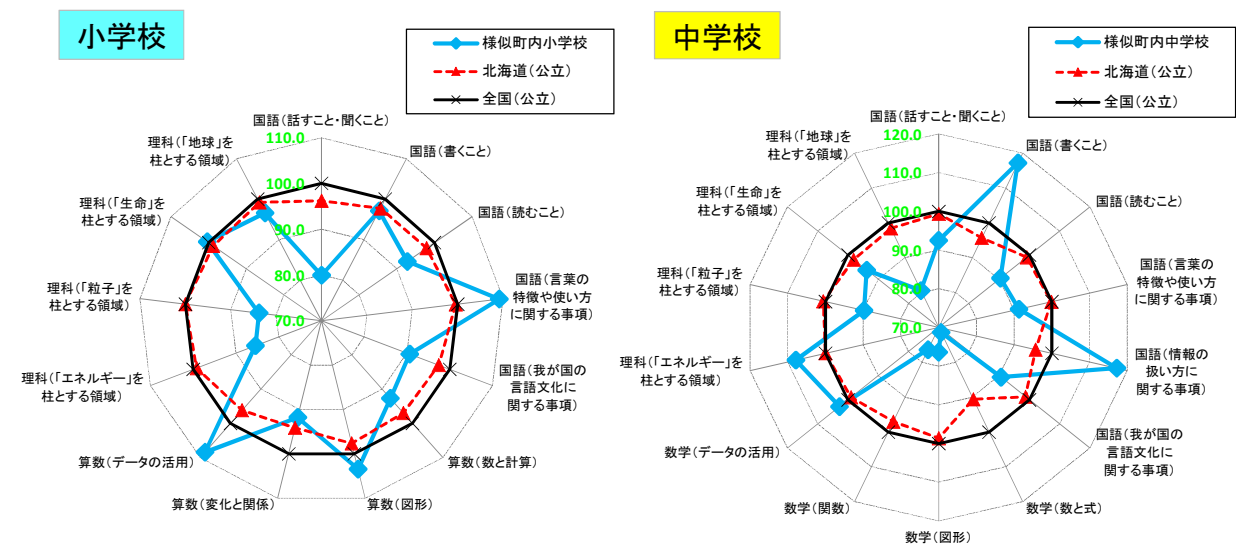
【浦河町の学力向上策】

- ◎ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた指導方法や指導体制の工夫改善の推進
- ◎ 「学力向上推進委員会」による学習習慣と生活習慣の確立の取組の推進
- ◎ 町内児童生徒の12年間の育ちや学びを見通した「小中高連携協議会」での連携及び情報共有

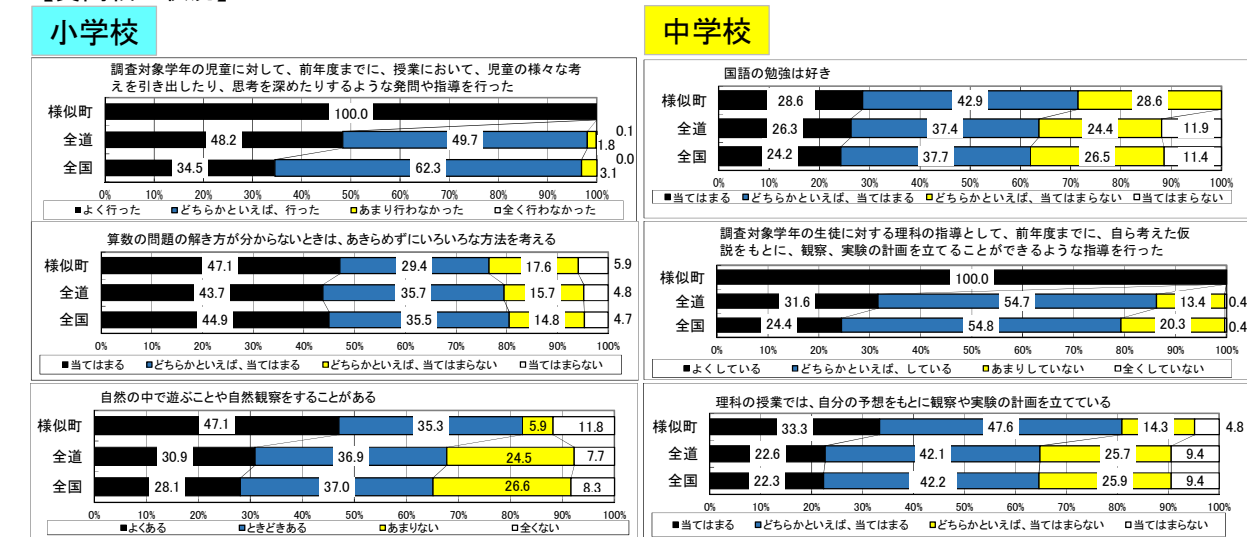
■ 様似町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「データの活用」及び「図形」の領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 小学校における教科担任制による教員の指導体制を構築したことにより、理科の授業において、授業改善が図られ、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「生命」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。	中学校 国語の授業において、児童生徒の学習状況の把握・分析及び教員の学習指導方法の改善による、学力向上のための組織的な取組を推進したことにより、授業改善が図られ、国語の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「書くこと」の領域及び「情報の扱い方にに関する事項」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。
---	---

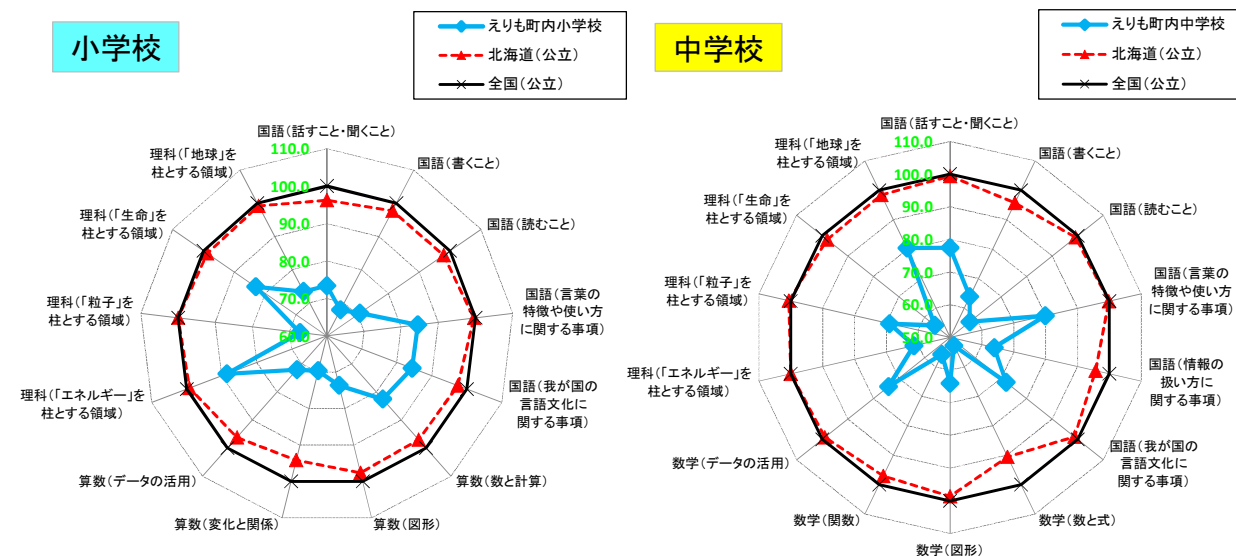
【様似町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の学習状況の把握・分析及び教員の学習指導方法の改善による、学力向上のための組織的な取組の推進
- ◎ 学校種の垣根を越えた「小中一貫相互授業」及び小学校における教科担任制による教員の指導体制の構築
- ◎ 「学校運営協議会」による、学校・家庭・地域が連携・協働する取組の推進

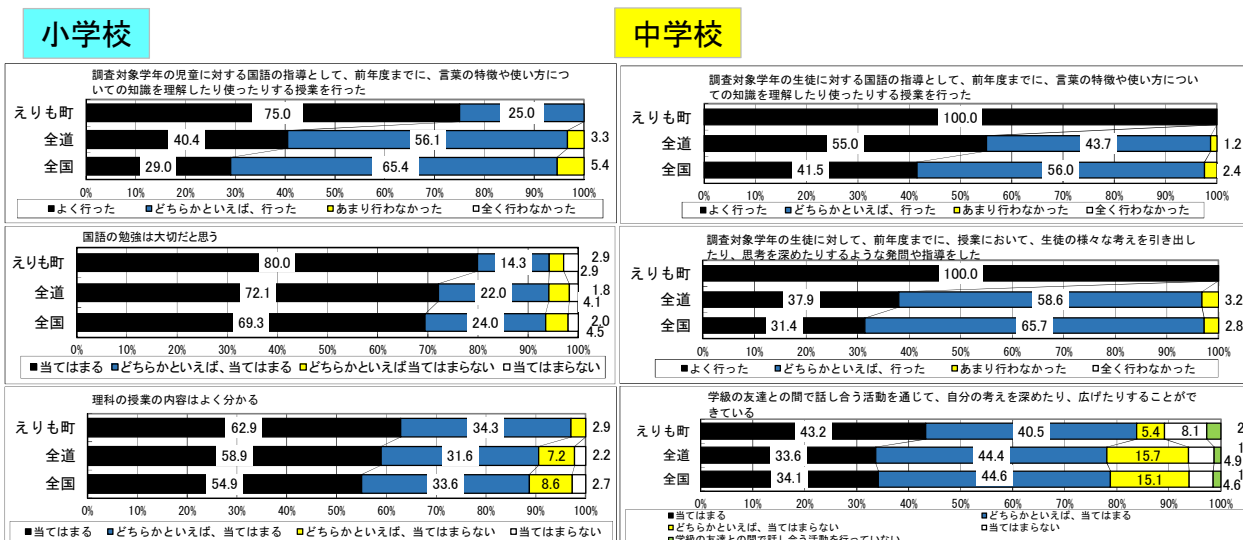
■えりも町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:35人）（中学校数:1校、生徒数:37人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が図られ、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。 ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導の充実により、授業改善が図られ、理科の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が図られ、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率が最も全国に近くなったと考えられる。 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、生徒の思考力・判断力・表現力等が育成され、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【えりも町の学力向上策】

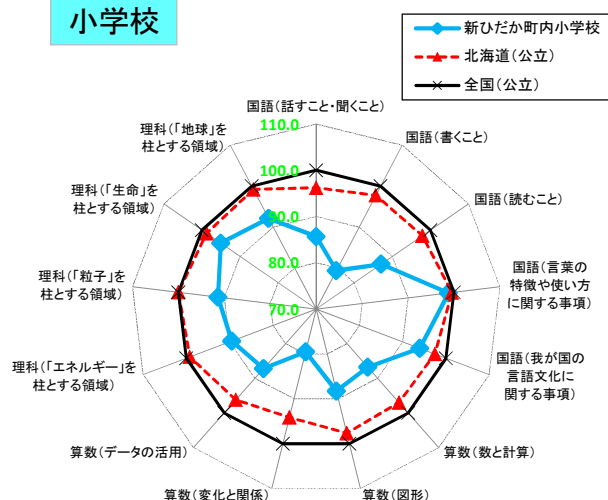
- ◎ ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導の充実
- ◎ 教育向上推進委員会による各種調査の分析及び分析結果を活用した授業改善
- ◎ 幼児教育を含めた幼保小中高の連携・接続の推進

■新ひだか町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:157人）（中学校数:3校、生徒数:162人）

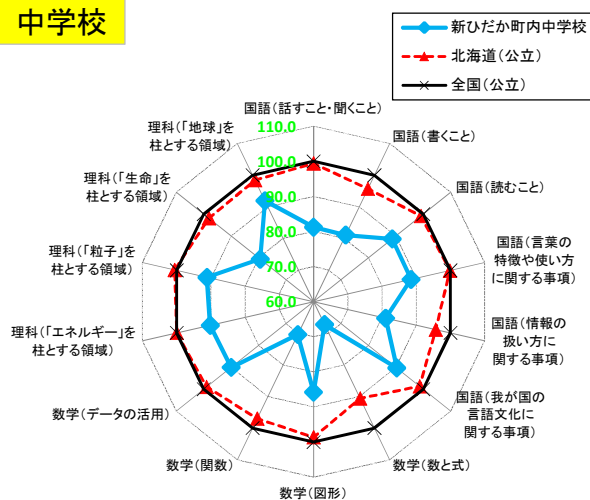
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

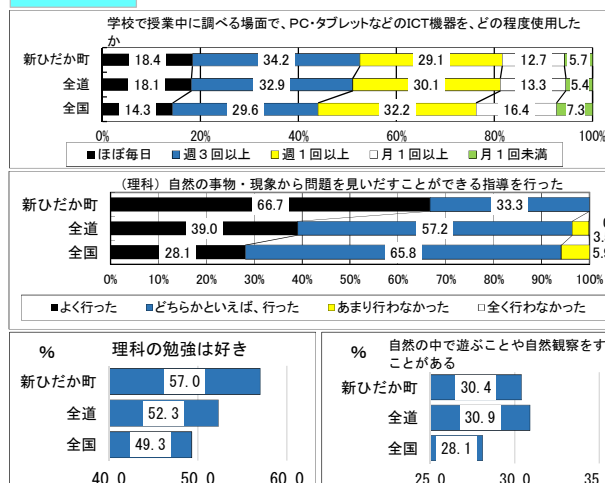


中学校

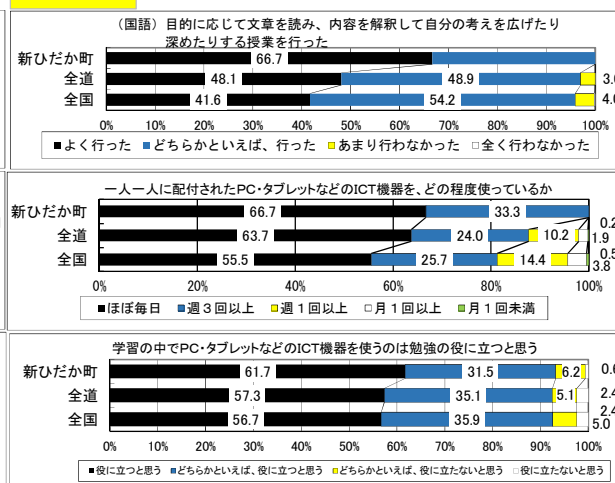


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町教育委員会の働きかけによりICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を推進したことにより、学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使っていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の勉強は好きと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「生命」を柱とする領域の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、一人一人に配付されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【新ひだか町の学力向上策】

- ◎ 中学校区を単位とした学力向上推進ブロックにおける小中の連携を図った学力向上策の推進
- ◎ 授業改善推進チームを中心にICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の推進
- ◎ 放課後学習サポート及び長期休業中の公設学習塾などの学習支援体制のさらなる充実